

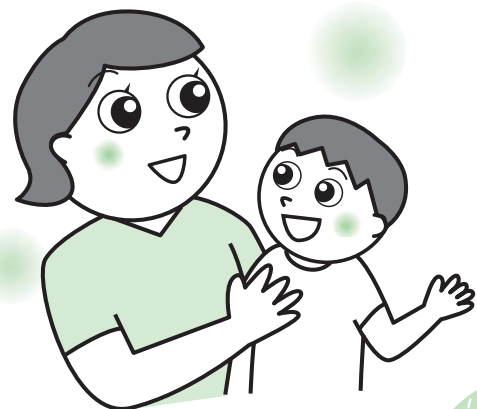
知的障害児の放課後を支える取り組み

知的障害のあるお子さんは、放課後に遊びにいて時間を過ごす所が少ないのが現状です。
地域ボランティアの放課後支援を中心に紹介します。

利用している 保護者の声

子どもが行くのを楽しみにしています。
広い地域で様々な活動があると良いです。
地域の方がやっているという安心感があります。

「ひろ」には障害に詳しいアドバイザー
が月1回きてくださる。非常に心強いです。



ストレッチ体操をしています。家にいると身体を動かすことがなかなかないので良い機会です。又、身体を柔らかくすると気持ちが落ちつき話がよく聞けます。

「グループひろ」活動内容

「グループひろ」は東本郷地区に住んでいる障害児を対象に放課後の一時預かりをしているボランティアグループです。民生委員、地域ボランティアが親の要望から平成11年にスタートし、現在も続けています。障害児は約6人ボランティア5人という構成です。

月2回15:30～17:30、東本郷にあるみどりハイムを拠点に、地域の民生委員と母親が中心になって運営しています。
流れ:ラジオ体操・ストレッチ体操やペットボトルを使ってのボーリングなど身体を動かすことから始まります。それが終わると日記を書いたり、簡単なドリルをします。時には焼きそばやホットケーキ作りをします。
アドバイザーは、迎えに来た保護者に「お子さんをほめてあげて」などアドバイスをしています。



ボランティアの声

当初3人の利用者から始まりました。まずやってみないと分からない!という気持ちでやってきました。

このような活動は、地域の方が障害のあるお子さんに声をかけ合う環境づくりのきっかけになっています。

会にきているお子さんが保護者と離れ、少しずつでも順番を待つといった社会性を身につけていくのがうれしいです。



ペットボトルを使ってボーリングをしています。スコアをつける係の子はペットボトルに目が離せません。

その他知的障害児を支える取り組み

保護者による県立みどり養護学校 「放課後一時ケア」

第1木曜日・第3水曜日の放課後、体育館を利用して、児童・生徒とボランティアがレクリエーション活動をしています。会の運営は保護者主体で行っています。保護者が兄弟姉妹など家族の用を足したり、リフレッシュする時間が持てるのでとても好評です。



広い体育館を使用しているので、こんなにのびのびできるんですね。

NPOによる通学支援

緑区内にある「くまさん」「エプロンみどり」「たすけあい・ゆりの木」のNPO団体は、知的障害児の通学に付き添う通学支援を行っています。



障害者地域活動ホーム

緑区では平成17年度完成予定ですが、近隣の区にある障害者地域活動ホームでは、余暇活動支援を行っています。

しんよこはま地域活動ホーム(港北区)
学齢期については、月2回実施しています。

つづき地域活動ホーム くさぶえ(都筑区)
夏休みなどの長期休暇は地域の実行委員会で
外出プログラムなどを企画していますが、
その事務局となっています。

少しずつですが、
地域での取り組みが
始まって
いるんですね。



みどりちゃん